



第6号 京都教育大学教育学部 附属桃山中学校 同人 会長 田原 睦夫 京都市伏見区桃山井伊掃部東町16 TEL (075) 611-0264-5

時代の変化の中で

会長 田原 睦夫 (十一期卒)

現在、世界は半世期に一度の大変動期を迎えている。一年前に何人が、この間に起った東欧諸国の共産党政権の崩壊、天安門の惨劇、またソ連における大統領制の導入を予測し得たであろうか。それらの国々では、かつては最左翼に位置づけられていたグループが現在ではマスコムから保守派、あるいは超保守派と呼ばれるに至っている。人間はどうしても保守的になる。先例を踏襲しては安全である。殊にそれなりに安定した状態におかれると尚更そうなり、時代の変化の兆が生じて

られてはいるが、これは何かが、という時代への観点が軽視され、欠落している。

もそれが眼をそらし、あるいは見ても無視しようとする。それは老若を問わない。安定した状態に居掛り、掴みかけた若手の方が、却って保守的になることも多。

例え、私が生活している法曹の場で、司法修習生の増員を巡る議論がなされているが、弁護士が増えれば食えなくなる。この競争を避けようとする発言や、専ら抽象的な理念論に基づいた制度改正への反対論は、若手が多い。そこでは時代が裁判法曹に何を求めているのか、法曹は、あるいは弁護士に求め

られているサービスは何か、という時代への観点が軽視され、欠落している。

とここで、同窓会というもの自体、極めて保守的なものであり、時代を先取りして何かをするような団体ではない。しかし、時代に対する観点を欠くと、単なるノスタルジアのためのものとなり、活性が失われる。同窓会の役員は、奉仕活動であり、無権限な社会的地位とは全く無縁であるが、活動メンバーが固定化するとうしても保守的になる。それを避けるためには、メンバーが順次入替る必要がある。

私の任期も去年六月迄であり、任期最後の年を迎えたが、保守派との批判を浴びないよう同窓会活動の活性が維持されつつメンバーへの橋渡しをできる一年にしたいと念じている。

附属礼讃

七期 中谷 郁夫

光陰矢の如しとはよくいったものである。附属桃山中学校を卒業してから早や三十五年の歳月が流れた。しかし、私にとってそんな昔のこととは思えない。むしろ、まだつい先日のことのようにさえ思えてくる。それほど附属桃山中学校のこと、

私の頭の中に鮮明に残っている。これは、私にとって附属桃山中学校の時代が、いかに有意義で楽しい時代であったか、私に証明されている。私が、小学校、中学、高校、大学と各々、別々の学校へ進学した。幸いにして、いづれの学校でも良き友を得、それなりに楽

しい学生生活を送ってきた。したがって、どの学校にも非常に愛情があり懐きがある。しかし、その中でも附属桃山中学校は別格である。私の人生五十年の中で、最初に一番光り輝いた時期であった気がする。

私は附属桃山中学校が文句なしに好きである。したがって、今でも「附属」という名前には、私には非常に好印象の響きをもっている。私事で恐縮であるが、私には

女一人男一人の三人の子供がいる。今は一番上の女の子が大学一年生、一番下の男の子が高校で大きくなっているが、これらの子供達が入る時期のことである。私が東京から神戸に転勤してきた。ちょうどそのとき一番上の子が中学、一番下の子が小学校へ入る時期に重なっていた。この学校へやろうかと家内は迷っていたが、私は即座に、入れるものなら神戸大の附属住吉がよいと決めた。別に、神戸大附属住吉に對するいろいろの知識があったわけでもない。むしろ、何の知識もなかったという方がよい。ただ「附属」という名前が気に入ったのであった。

このように、附属という名のイメージは私にとっては非常に良いものである。今でもそれは、附属桃山中学校がそのイメージを醸成している。それは、いろいろな要素が複合して起きている。思い当たる、主にその点を挙げてみる。次のようなどころであろうか。

まず、学校の雰囲気。非常に明るく自由であった。したがって、私達もびびりとしていたように思う。世にいう「よく学びよく遊べ」である。もう一つ私などは、よく遊びよく遊べ」のくちであったが、私達は第七期生で、まだ歴史も浅く、運動場も十分整理されななかつた。私などは、バレーボール部とバスケットボール部を兼ねて、各々のコートもローラーを引っぱって整地したものである。学校は今と異なっていた。恒武天皇陵の下、桃山の高台にあって、今の興行看護学校のところである。クラスは一学

年二クラスで、全校でもせいぜい三百人という非常にこじんまりとしていた。したがって同窓会は勿論のこと一年下の人も二年下の人もかなり、人はお互に知っているという、極めて家庭的な雰囲気であった。

男女半々というのも中学生生活に大変潤いを添えてくれた。特に少年期から青年期へ移行する極めて多様な時期であり、女の子の存在は大いなる助にもなった。これも中学生生活を楽しくしてくれた一つの大きな要素であろうか。

また、生徒の数は、前述のように少人数であったが、質的にはみんな「粒が揃っていた」と思う。

さらに、先生方も非常に良かった。私の担任であった奥谷先生をはじめ、数学の加藤先生、英語の吉山、森田両先生、体育の寺本先生、歴史の服部先生、理科の横井先生、家庭の上野ヨウ子先生、国語の榎井先生等々、書き出せばきりがないほど、先生方も各々個性があり熱心でもあった。その中でも、奥谷先生の熱心さは頭の下の下がる思いであった。

いづれにせよ、このように、「粒の揃った」先生と生徒が一体となって楽しいハイモーションとなっていたのが当時の附属桃山中学校ではなかったか。

附属桃山中学校の良さを挙げれば、まだまだあり、きりがないのでこのあたりで終えるが、では、欠点はないのかといえそうである。何事にも長所と短所があるように、わが愛する母校にも残念ながら欠点はある。これは私だけの印象にすぎないが、まず、イメージとして「力強さ」に欠けている感じがする。これは、京都人のイメージが重なるためか、はたまた、女子師範の流れをくむせいか、そのよってたつところは定かではないが……。

もう一つ挙げれば、時間に対して、やうもずるとルーズな人がいるというところである。例えば同窓会の集合にしても、必ずといってよいほど大幅に遅れてくる人がいる。これも附属というよりは京都人の習性？なのかもしれないが……。

私の独断と偏見で申し上げれば、このように欠点もあるが、全体的にみれば長所の方が圧倒的に多く、これ以上の中学校は他になかったかと思つていい。

このような愛着の念が、同窓会、クラス会への出席をもちりたてる。私は、同窓会、クラス会への出席率は七期生の中では非常に高い一員である。この陰には、七期生に限ってはいえ岡田節子さん、小関正雄君の両幹事の苦勞があり、私は常々、両氏には感謝している。

いろいろ取りとめもないことを書いてきたが、何ともあれ附属桃山中学校は、私にとっては大切な学校である。私の大学の母校早稲田大学の校歌に、「都の西北 早稲田の社は……」という一節があるが、わが附属桃山中学校も、「京都の南東 桃山の社は心ふるさどわれらが母校」という一節があるが、わが附属桃山中学校も、京都の南東、桃山の社は心ふるさどわれらが母校」ということになる。

附属桃山中学校は、私にとって、文字どおり、心ふるさどである。

創立40周年記念総会 報告を兼ねて

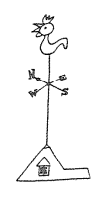
はるか遠い言葉をとつた六・三・三制が施行されて、新設附属桃中間校が発足したのは昭和二十四年三月。会員はわずか四十四名でした。現在の数は四百七十八名となり、一年一年と積み重なって六十年の重みを感じます。長い年月の間には、同窓会の灯が消えかかるときもありましたが、各年度の役員・会員の奮闘の努力と協力によって無事に運営され、昨年六月同窓会創立四十周年記念総会、懇親会がパルク・ホテルに於て盛大に催されました。

この日は卒業生にとって大きな喜びと安堵と、そして良き友と帰るべき故郷の存在を改めて心に深く刻みつけた日でした。三年毎の総会は例年八月末の日曜日正午から開かれていたが、今回は心新たに日時を六月二日(土曜日)午後一時からと設定されました。

当日は恩師の諸先生、会員の皆様方総勢百五十余名が出席され思い出を語り、近況を互に報告しあひあひのビンゴゲームでは先輩後輩入りみだれ興じ合い、実に楽しい時間を過ごしました。出席の同窓会には、親と子、兄弟姉妹・従兄弟同志、叔父叔母、又それぞれの友達などのつながりが数多く見られました。それが附属のカラーを醸成し、長い年月変わることもない和気あいあいとした心の通い合いを生み出したのだと思えます。他には得難いこの特色を失うことなく、大切に育てて同窓会の

新役員

- 会長 二期 田原 睦夫
- 副会長 二期 松井 京子
- 理事 二期 家村 浩和
- 〇期 辻 絢子
- 二期 百々 恵子
- 二期 小嶋 隆
- 二期 田村 直樹
- 二期 上野 浩也
- 二期 稲葉 謙次
- 二期 柴田 智緒
- 二期 岡本 茂樹
- 顧問 水山 光春先生
- 濱 恵子先生



肝疾患

—最近の話題から—

十三期 福田 善弘

付属桃山中学校を卒業して、恐ろしいことに早や二十年たらず過ぎたことになる。私が医師になろうと決めたのが三の頃で、動機は定かでないがその情景は今でも鮮明に覚えている。私がいまあるのは、時局の許す限り同窓会に出し、また「つゆ草」もその顔を懐かしく思い出しつつ読ませて頂いて、いま話題になっていることを分りやすく書いてくれないか、それも七十日以内といわれた時、外国出張から帰ったばかりで……、ちょっと考えましたが、少しでもお役に立てばと引き受けることにしました。

まず最近最も話題をあつめて

いるのは長らく未知であった非A非B型肝炎ウイルス(HV)で、正確にはウイルス遺伝子)が昨年発見され、その後HCV抗体を測定することによりC型肝炎の診断が可能となったことである(表)。表を見ながらウイルス肝炎について少しふれてみる。A型肝炎は汚染された食物や水により感染(経口感染)し、約1ヶ月ほどの潜伏期を経て風邪様症状(発熱、全身倦怠感、食欲不振、時に腹痛、黄疸、下痢など)で発症する。一部劇症化(広範囲に肝細胞がやられ短期間に肝不全あるいは腎不全

の感染は持続し、一部の症例では慢性肝炎→肝硬変→肝臓へと進展する。B型肝炎の診断はほぼ確立しており、過性持続感染か、HBVの増殖が旺盛な時期か否か、あるいはHBVの完全消失か、などの判断が可能となっている。またHBs抗体を高力価を含む免疫グロブリン(HBIG)やB型肝炎ワクチン(HBワクチン)による予防効果がある。HIVの存在が想定されてから発見まで実に約十年の歳月がたつており、ウイルスの量が非常に少ないことや、抗体ができていくことがネックとなっていたのである。C型肝炎の診断が可能となり、その全貌が明らかになってくる。次の興味は血液を介する非A非B型肝炎ウイルスはHCV一種類なのか、また他にどのような点がある。即ち最近の遺伝子解析からこのウイルスはエイズと同じく変異しやすいことが明らかになり、現在のHCV抗体測定で陰性の症例はHCVの変異したものが多かった別のウイルス(HFV)か、今後の問題である。また多くの患者が慢性C型肝炎の治療も難大関心事であるが、現在インターフェロンによる治療が実施されており、その良好な成績から、保険適応となる日もそう遠くない。

E型肝炎はインド、ネパール、ビルマなどで時に集団発生がみられており、A型肝炎と似ている。性的非A非B型肝炎の一部はE型と思われるが、現在測定系が開発されている。これにより流行の診断が可能となった時点で散発性であり、輸血後であり、わずれとも診断できない肝炎の存在が知られており、これらの肝炎は便宜上、非A非B型肝炎と名づけられた。特に血液を介する非A非B型肝炎(先述のC型肝炎)は、血後肝炎の大部分を占め、また成人で感染してB型肝炎と違って高率に慢性化し、肝硬変→肝臓に至るため、世界的に重大な問題である。世界中の学者がそのウイルスの分離、同定のためHVA、HBV発見の際の手法などを駆使したがすべて徒勞に終わった。しかし、今までの病原ウイルスの分離、同定とはまったく異なる最近の分子生物学的手法を用いてそのペルがはがされた。HCVの存在が想定されてから発見まで実に約十年の歳月がたつており、ウイルスの量が非常に少ないことや、抗体ができていくことがネックとなっていたのである。C型肝炎の診断が可能となり、その全貌が明らかになってくる。次の興味は血液を介する非A非B型肝炎ウイルスはHCV一種類なのか、また他にどのような点がある。即ち最近の遺伝子解析からこのウイルスはエイズと同じく変異しやすいことが明らかになり、現在のHCV抗体測定で陰性の症例はHCVの変異したものが多かった別のウイルス(HFV)か、今後の問題である。また多くの患者が慢性C型肝炎の治療も難大関心事であるが、現在インターフェロンによる治療が実施されており、その良好な成績から、保険適応となる日もそう遠くない。

E型肝炎はインド、ネパール、ビルマなどで時に集団発生がみられており、A型肝炎と似ている。性的非A非B型肝炎の一部はE型と思われるが、現在測定系が開発されている。これにより流行の診断が可能となった時点で散発性であり、輸血後であり、わずれとも診断できない肝炎の存在が知られており、これらの肝炎は便宜上、非A非B型肝炎と名づけられた。特に血液を介する非A非B型肝炎(先述のC型肝炎)は、血後肝炎の大部分を占め、また成人で感染してB型肝炎と違って高率に慢性化し、肝硬変→肝臓に至るため、世界的に重大な問題である。世界中の学者がそのウイルスの分離、同定のためHVA、HBV発見の際の手法などを駆使したがすべて徒勞に終わった。しかし、今までの病原ウイルスの分離、同定とはまったく異なる最近の分子生物学的手法を用いてそのペルがはがされた。HCVの存在が想定されてから発見まで実に約十年の歳月がたつており、ウイルスの量が非常に少ないことや、抗体ができていくことがネックとなっていたのである。C型肝炎の診断が可能となり、その全貌が明らかになってくる。次の興味は血液を介する非A非B型肝炎ウイルスはHCV一種類なのか、また他にどのような点がある。即ち最近の遺伝子解析からこのウイルスはエイズと同じく変異しやすいことが明らかになり、現在のHCV抗体測定で陰性の症例はHCVの変異したものが多かった別のウイルス(HFV)か、今後の問題である。また多くの患者が慢性C型肝炎の治療も難大関心事であるが、現在インターフェロンによる治療が実施されており、その良好な成績から、保険適応となる日もそう遠くない。

コンピュター断層撮影(CT)では、5-1cmの腫瘍を見つけておくことが可能で、この場合手術などいろいろな治療が可能となり、肝臓でも早期発見、治療による五年、一〇年といった長期生存者がでてきている。しかしながら私たちの外来でも数年前に来院され、久しぶりに来られたときは残念ながら肝臓がでかくなり、手遅れで治療ができなかった例もあり、慢性肝疾患、特に肝硬変の場合は慎重な経過観察が必要と思われる。一方、急性肝不全や末期肝硬変、小児の胆道閉鎖症など従来治療法がなく、死にたいして手をこまねいてみていたような方法がなかった症例に対して肝移植という道が開かれようとしていた。昨年の島根県大田ついで京大、信州大と生体肝移植、(いずれも両親から)から始められた。島根の症例以外に順調な経過をたどっており、今後生体肝移植を受けられる症例が増えると思われる。また脳死の問題が解決されれば、脳死肝移植も始まると思われる。適応基準の作成、移植希望者の選定、リスト作りなどが急がれる。

以上のは同窓生の力にはあまり関係がない話ですが、最後に少し身に覚えのある話を書きたいとします。最近よくに食糧事情が改善、グルメメニューといった影響で過剰なアルコールを飲んだり運動不足により、肥満脂肪の患者さんが増えてきていますので、日頃より十分注意してください。健康な状態で紹介される方の半分ぐらいが多かったです。以前は中年の方が多かったのですが若年化が進んでいます。お子様方にも注意を!

ウイルス肝炎各型と臨床事項

肝炎の型	原因ウイルス	感染様式	持続感染
A型肝炎	A型肝炎ウイルス(HAV)	経口	なし
B型肝炎ウイルス	B型肝炎ウイルス(HBV)	主として血液を介する 非経口	あり
C型肝炎	C型肝炎ウイルス(HCV)	主として血液を介する 非経口	あり
D型(δ)肝炎	D型(δ)肝炎ウイルス(HDV)	非経口 HBV感染への同時・重感染	あり
E型肝炎	E型肝炎ウイルス(HEV)	経口	なし
F型肝炎?	F型肝炎ウイルス?(HFV)	主として血液を介する? 非経口?	あり?

中学生生活を ふり返って

四十一期 仲摩 志野

今年、無事に高校に入學することができ、はや半年ほどたちました。今はもうこの高校生活をすっかり慣れ、毎日充実した日々を送っています。

そんな中、クラブからの帰りに、電車の中から見える附属中学校が普段と変わらなうすっしりと風格をもって変わっています。

何事もなく、無事平和な一日を終えたにはあまり気にもとめないけれど、嬉しい事、楽しい事、又は悲しい事やいやな事

たし、帰宅途中での飲食は一切禁止。ましてや校章をつけないなんて言語道断。まあ、そんなことはごくあたりまえのことなのだ。けれど、高校に入ってから、ほとんどの上級生はトップが私服としながら、いらないものを着ているんです。

もちろん、くつもバラバラ。飲食なんて、授業間の休みの時間にアイスクリームを出たころにちやうど店があるのがいけないのだと思うけど、下校時にはそこに学生がたむろしています。それに、夏服になると、校章をつけないのはおろか、つけている人に「校章なんかつけてるの。」などと一言人まででできました。

自由といえば自由だけど、このゆめは悪く言いかえると一種の監禁じやないかと思えます。しかし、そのような行動も全て自分の責任。高校では自分らしさという人間性を養う所なのだ。なまじみじみ思いました。

それに対して中学は、社会人としての一般常識を徹底的にたたきこまれる養成所みたいな感じがします。

そう考えると中学校の厳しさを納得います。当時はそんな生活がイヤでイヤでしかたがなかったけど、今ふり返って考えると自分自身のためにも、改めて自分自身に感謝しています。

一度しかない中学時代、そのことを理解していれば、もっともっと楽しく充実できたのではないかと悔やんでます。

高校ではそんなことがないように一杯やっていこうと思っています。

附属中学校での三年間

九期 柴田 道生

私は、付属中学校に昭和二十九年四月より昭和三十三年三月まで在籍しました。この三年間は非常に素晴らしい思い出の残る期間であり、また、私の人生に重要な転機をもたらした時期であることに気づきます。三十五年を経過した現在の目で当時を振り返ってみます。

Cのあだ名で親しまれた音楽の先生、今もたびたびお目にかかる、その度に新しい何かを提示して下さいます。親分格のG先生、あだ名がZの英語の先生、あだ名がTの国語の先生、あだ名がAの美術の先生等、ここでエピソードを紹介したい先生は沢山ありますが、ここでは、理科のY先生の思い出を記します。

Y先生は専門は理科でしたが、一年生には数学を教えておられる段階では「鶴亀算」や「旅人算」等が主題です。毎時間の最後に課題が出ます。それはただ、「考えてきなさい」というだけという課題ではありませんでした、やらなかったら罰を受けるという課題ではありませんでした、私は毎回懸命に考えたのですが、大抵は手も足も出ない問題でした。次の冒険で、回答と解説が行われました。それは鮮やかな展開で、いわゆる逆立方式の理論などを持ち出すことなく、解に到達する過程を理解することができました。「現象を分析し、定式化して解く」という自然科学における基本の命題の手ほどき、この時点を受けていたことに気づきます。理科の時間に学んだ力学の初歩、モーター/発電機の原理などは

私達の心をとりえた自由主義的な校風は、この不十分な学舎の中で先生の一致協力から生まれたのではないかと気がします。私達の卒業後、中学校は現在の地に移ったわけですが、旧学舎に愛着をもっていた私は非常に残念でした。もちろん、旧学舎建設費用の大部分が私達の父母の寄付で賄われたと聞かされたことも、不満の因でしよう。

未だ印象に残っています。大学の成績がいちばよかったはずですが、現在はほとんどその内容も思い出せません。知識の修得が知識欲に裏付けされていなくただ求め思われない。中学での成績はそれほどでもなかったにもかかわらず、当時の印象が鮮明なのは、その過程が知識欲と進歩的であったためでしょう。その知識欲をかき立ててくれた付属中学校の先生方とは、まだまだ先生生徒の波長が合った。

中学時代と今の私

十四期 藤田 恭子

中学校を卒業して二十八年。当時は四十代の人なんて遠い先のおじさん、おばさんであつた。初老のイメージしかなかった。それが今、その年代の真ん中に突入しているのだから恐ろしい。当時、うんと年節を越えてしまつてゐるんです。卒業の時だつて、クラスメイトに「二十八年たつたら会いましょう」なんて「どんな年寄りになつていのか」とも言えなかつたはず。でも、振り返るといつか意外と月日のたつては速く、案外また若いなあと感ずるものですね。

さて、中学三年間は大好きなピアノの練習に没頭し、クラブも勿論自分が進んで音楽クラブへ入り、楽しく充実した日々を送りました。その当時の音楽クラブは、奥谷先生を中心としたものでした。クラシックの演奏、また珍しかったテレビ放送のスタジオ緊張とめづらしくしてベンをおくんですが、

ただかかも知れませんが、私も歳を経て、人に教える職業について二十年になろうとしています。現在の学生気質に歯がゆい思いをしていますが。彼らは多分、最も思考力が柔軟な時期に、私達が授かったような教育を受けていないのでしょう。かつて私達が受けたインパクトの何分の一かでも、私の教える速さに与えることができたと思うこの頃です。

人々の心に 生きた画家

十期 辻 絢子

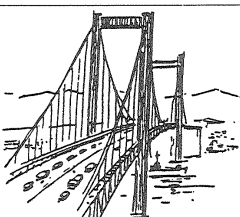
ぐずついた天候に、何やら心も晴れぬ十月のある日、日本のゴッホ、放浪の天才画家、裸の作品を多数持つ異名を持つ、一同が一緒にいらつて張らる。その時の情景を思い出して、以上思い出の普通はここで、以上思い出の記としてベンをおくんですが、

何しろ五・六枚といふレベルで、後半はよくあるパターンの過渡期、現在の私と同一になるまいか。

二十八年の間にはどの方もうでしよが大きな喜びや悲しみを乗り越えて今日に至り、今や足で一日乗らないと落ち着かない。ストレス発散に最高ののどをケンカのおとも一回りしてくるとケロリと治るのです。だからといって高級車に乗っているわけでもなく、私専用車があるわけでもありません。わが家で四台目の今の車はとて気が入って、今までは鉄の箱の中に座り、いかにも自動車を動かしているという感じでした。軽く、身体の一部だけを動かしている感じがします。つまり、前者は「車分離」後者は「人車一体」といいます。よわく友達が多い方が、不思議なもので私の周囲をみると十八人八人の割で車に乗ります。

この時にあの人に出会って私に出来たことはいくつか決意したのであります。この時すでに三十一才。長男は小学校一年生でした。この子が三年生になった時、夫の仕事の關係で米国在住一年半の間、車で大陸(カナダ・ロシア)を断断と、帰国の際に東(フィリス)カロライナ→西(ロサンゼ)に必要であるが、それと同時に乗ることが好きである。ということ。

ルゴ 横断をやつたのが病つきのはじまり。それから平日までは無事故無違反です。すでに病気を克服した長男、この要休みに免許をとった。私が彼のため免許をとったことこそ私の足をとらつていますが、まだ小二の末っ子がとるまで十年。まだまだくずれませんが、人はい、「早く足を引退したい」と本当の足が動かなくなるよ」と親切なアドバイスをしてくれましたが、その内全国のハイウェイが完成したら、京都→北海道、京都→九州断断を果して、余生を若々しく過すつもりであります。皆様、お近くにドライブの折は是非立ち寄り下さいませ。



は、単に根拠を努力だけではなく、私の心に素直に入り込み、心の琴線にふれ、我が忘れかけている何かを呼び戻させてくれる。そんな不思議な力を持つ。又私の心を持った作品に出会うことは近年にはなかった。私も人を教える職業につき二十五年以上経つた今、子供達に展覧会を行って来るといふことに胸をはって来た作品は数少ない。手書きを上手にする事を覚え、今の子供達、テレビやファミコンの時代に育ち創造性に欠ける子供達、一枚の白い画用紙に自分の心を入れて絵を描く事を知らない子供達、そんな子供達に接している今、今後指導して行く課題をこの作品展から教えられたような気がした。山下清は自分の作品に、称賞も代償も期待していない。無償の行為から生まれる美しさといふものはこのように悲しいほどのびきをもつて、人の心打つものなのだろうか。

編集後記

今、印刷所からのメッ催徒に追われながら、この編集後記を書いています。

今回は原稿の集まりがいまひとつで、辻編集長の「苦勞は大変なものですが、なんとか皆様のお手元に「つゆ草」をお届けすることが出来ました。しかし最近はおアシミという大変便利な物が出現し、昔であれば電話口にかじりついて、長々と話し込むか、はたまた大急ぎで印刷所に清り込まねばならぬ等大変な作業を要しましたが、今はお陰様で私共編集委員も楽をさせてもらっております。



何はともあれ、私にとっては二回目の「つゆ草」編集もなんとか終了しようとしております。

ここで「つゆ草」編集に一人で老骨のしにムチ打って奮んでいただいた辻先生にこの紙面をお借りして、心よりお礼を申し上げます。

今後はもっと多くの方から、より多くの原稿をより早くお送り下さるよう、お願いいたします。

(小嶋 隆)

会費担当理事 一〇期 辻 絢子
一四期 小嶋 隆
三七期 稲葉謙次
三七期 柴田智緒

訃報

同窓会顧問としてお世話をしていただきました大西正宣先生(五十六才)が本年九月十五日心筋梗塞の為、死去されました。

心から先生の「冥福」をお祈り致します。

収入の部		支出の部	
前期繰越金	1,463,387	前回総会支出	1,507,813
利息	9,416	各種通信、郵送費	14,668
前回総会収入	1,746,878	H.1卒業生贈花費	10,000
臨時同窓会費	48,910	慶弔費	10,000
H.1卒業生入会費	414,000	次期繰越金	2,140,110
計	3,682,591	計	3,682,591

京都教育大学附属桃山中学校 同窓会 評議員名簿

期	氏名	住所	電話	期	氏名	住所	電話
2	松井 京子			22	田中 真須美		
〃	井上 紀美子			23	智原 栄一		
3	中島 章			〃	大池 純子		
〃	得丸 和子			24	森田 真司		
4	原 憲男			〃	谷田 裕美		
〃	山岸 良子			25	石田 博之		
5	山中 弘一			〃	泉谷 香織		
〃	石田 敬子			26	上野 浩也		
6	越山 捷利			〃	遠藤 由紀子		
〃	星野 弘江			27	洲崎 博史		
7	小関 正雄			〃	津田 純子		
〃	岡田 節世			28	吉田 明弘		
8	安田 幸子			〃	宇野 陽美		
〃	原 悦子			29	堀 保博		
9	松本 二郎			〃	松井 啓子		
〃	森川 摩瑛慧			30	白数 積雄		
10	大山 孜郎			〃	平岡 理恵		
〃	辻 絢子			31	玉井 昌孝		
11	田原 睦夫			〃	繁本 令子		
〃	岡本 靖子			32	水谷 善彦		
12	岡本 茂樹			〃			
〃	川村 克子			33	田中 英行		
13	家村 浩和			〃	近藤 朋		
〃	百々 恵子			34	菱田 真		
14	小嶋 隆			〃	上尾 京美		
〃	藤田 恭子			35	岩崎 猛		
15	小林 美沙江			〃	大獄 あゆみ		
〃	唐橋 美也子			36	池谷 哲		
16	秋元 孝子			〃	奥島 雅子		
〃	水谷 孝子			37	稲葉 謙次		
17	井上 達朗			〃	柴田 智緒		
〃	鶴木 芳子			38	塩見 真一		
18	吉田 崇			〃	中井 清恵		
〃	藤花 優子			39	植平 祐一		
19	本庄 良文			〃	山脇 広子		
〃	森川 順子			40	吉村 裕司		
20	龍村 薫			〃	岡 美穂子		
〃				41	篠田 匡史		
21	下村 勉			〃	吉田 知未		
〃				42	小野 明倫		
22	田村 直樹			〃	仲摩 志野		